

自動化を支える



埼玉工場の新工場棟「A棟」。中長期の自動化需要増を見込み直動機器を増産する

ヒーハリスト

ヒーハリストは精密加工後もデジタル化が進展し、工部品やレース用部品を半導体関連の需要が底堅手掛け、中でもボールの回転が運動を利用した直動機器は売上高の約7割を占める主力事業だ。半導体製造装置や工作機械などに使われ、自動化を支える機械要素部品である。シェア拡大のチャンリ、大手直動機器メーカーと力説する。

1向けにOEM（相手先ブランド）供給のほか、釣リ具メーカー向けに自社ブランドによる直接販売にも取り組んでいる。

大口需要先の産業機械は、エレクトロニクス関連をはじめ、需要が低調な状況にある。だが、今

新棟稼働、直動機器のシェア拡大

ていくものだ。

23年5月には約2億円を投じ、埼玉工場（埼玉県川越市）内に新工場棟「A棟」を稼働した。供給能力を増強するほか生産性向上に努める。「品質にバラつきがないものを効率良く作る」（尾崎社長）ために、直動機器の組み立てを支援する機械設備などを内製化。自社製品を採用することで自動化に向けたノウハウの蓄積や今後の製品開発などにも役立てている。

能力増強に動く背景には過去の教訓がある。21年はコロナ禍後の急激な需要回復にフル稼働・フル生産だったが、需要増に生産が追い付かず機会損失が発生した。「このまま何もしなければ生産は頭打ちで需要に応えられない」（同）として、22年3月期、23年3月期に減価償却費を大きく上回る設備投資を実行してきた。

尾崎社長は「直動機器の増産に覚悟を持ってやっている」と力説する。厳しい環境下だが、挑戦を続けることで中長期の成長に結び付けていく。